



福島高校



魅力ある 福島高校の 取り組み

～自ら学び
表現力ある
福高生～

樹祭が開催されました



福島高校2年生
生徒会長
おまさや
平尾 真也さん

夏の終わりを告げるような涼しげな秋風が吹きつつも、まだちらほらと聞こえてくる蝉の声が夏の余韻を楽しませてくれる今日この頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか。お久しぶりです。生徒会長の平尾です。

先日、福島高校では樹祭が開催されました。体育の部は台風の影響で悪天候でしたが、各団団長、リーダーを筆頭に力強い闘いが繰り広げられました。中でも団対抗綱引きは勝つか負けるかの接戦でとても盛り上がりました。加えてクラス対抗リレーに団対抗リレー。皆の思いがバトンを通じて繋がっていく様子を放送席から見守っていた私は一瞬も

目が離せませんでした。午後からは体育館内で主に3年生の創作ダンスの発表、閉会式が行われました。息ぴったりのダンスにはストーリー性があるものもあり、とても面白かったです。

次に来たるは文化の部。初めに生徒会役員によるオープニングセレモニー。私を含めた8人の役員と旧役員の協力によりとても良いオープニングになったと思います。合唱コンクールは1年3組が最優秀賞となりましたが、どのクラスも気持ちの入った素晴らしい合唱でした。

福高生の想像力、表現力が発揮される劇、映画部門もレベルの高い発表になりました。特に3年生の劇は、今年が最後の樹祭ということもあり、演技もストーリーもとても面白かったです。役者担当さんも凄いですね。脚本担当の皆さんも凄いですよ。

文化の部



体育の部



普段は見えないクラスの協調性を見ることが出来る良い機会になりました。

そして、文化部発表、英語暗唱弁論発表、個人発表。どれも面白いものばかりでしたが、個人的には科学部の発表、好きでした。内容はダニを用いた実験結果の報告だったのですが、いろいろとダニの可能性を感じました。

無事に樹祭を終えることができたのも福島高校のみんな、先生方、地域の皆さんの支えがあったからだと思います。本当にありがとうございました。

話は変わりますが、今年の秋はどのように過ごされていますか？芸術の秋、食欲の秋、私は秋の全てを楽しみたいと思います。皆さんも体調などにお気をつけて秋をお楽しみください。

若年者の ピロリ菌感染について

串間市民の皆さんこんにちは。以前も書かせていただきましたが、今回もピロリ菌の話題に触れたいと思います。

ご存じの方もいると思いますが、2013年2月より慢性胃炎（正確には、萎縮性胃炎と呼ばれます）に対するピロリ菌の除菌治療（ピロリ菌を消す治療）が保険対象となりました。ただし、まずは胃の内視鏡検査を受けて慢性胃炎があることを確認する必要があります。

以前は、自己負担で高額な検査や治療費を支払う必要があったため、保険が通った以降、全国的にピロリ菌感染の検査や除菌治療件数が増えていると考えられ、当院でも外来や検診にて、以前と比べ除菌治療をさせていただく機会が増えています。保険が認められた背景には、ピロリ菌感染にて生ずる慢性胃炎に対する除菌治療の有効性が確認されたこと、さらに、ピロリ菌感染や胃炎が続くことによる胃がん発生の危険性が考慮されたことなどが挙げられます。もちろん、ピロリ菌感染や慢性胃炎があるから絶対に胃がんになるという訳ではありませんが、一般に、ピロリ菌は体の抵抗力（免疫）がしっかり完成していない幼少時に多くは感染すると考えられています。近年の

衛生環境の向上で若年者のピロリ菌感染率は下がっているとも言われています。

前述の通り、ピロリ菌が胃の中に感染してから胃炎が起ってくることを考えると、できるだけ若い時期に除菌治療を行うことで胃炎の進行を食い止め、胃がんなどの病気を予防する効果が強いと現在では考えられています。

ここからが今回の本題ですが、以上の理由で若い年代でのピロリ菌除菌治療の意義が重要視されるようになり、全国的にもまだ限られてはいますが、将来的な胃がん予防の目的で、ピロリ菌の専門医や小児科医、自治体の連携にて中学校や高校でのピロリ菌感染検査や除菌治療の試みがなされている地域が出てきています。学校検診という形で尿などでのピロリ菌感染の検査を行い、陽性であった生徒さんは除菌治療まで自治体が負担して無料で行っているようです。ただし、副作用の問題など除菌治療薬を若年者に安全に使用できるか、治療を行うことしたらどの年齢が適切かなど、専門家の間でもまだ議論がなされています。ただし、検査に限れば、中学生は義務教育であり、自治体が検査を行う場合は対象者をより漏れなく検査できる可能性が高いと思われるます。

串間市では、本年6月より小中学生の通院医療費の助成がスタートしており、

その充実が素晴らしい政策だと思えます。さらに、来年度からは、市立串間中学校と県立福島高校が連携型中高一貫教育校になる予定とかがありました。

少子化が厳しくさまざまな問題がある昨今ですが、悲観するばかりではなく前向きに考え、特に串間中には市内の大半の生徒さんが進学されると思いますので、これを機に全国の先駆けに遅れず、市内の中学生を対象としたピロリ菌検査をまずは導入し、いずれは、将来の宝である子どもさん達の健康維持の一助として、将来の胃がん予防（これを一次予防と呼びます）のために除菌治療も検討していければ良いのではとも思っております。

以上はおくまで私個人の考えで、簡単に実現可能なものではありませんが、機会があれば、市の担当者様にお話だけでも聞いていただければ幸いですとも考えています。

最後に、胃がんの全てがピロリ菌感染で起るわけではなく、また、ピロリ菌が消えても胃がんの危険性がゼロになるわけでは残念ながらありません。普段の食生活や運動など生活習慣にも気をつけていただき、検診も定期的に受けられて、皆さんが健やかにお過ごしいただけるように願いながら、今回のお話を終わらせていただきます。最後まで読んでいただきありがとうございます。

Health Knowledge

健康マメちぎ

著：串間市民病院 内科
井上 龍二 Ryuji Inoue